平新報

發行日毎月三回、五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

田中智學著 日本とはいかなる國ぞ（國體讀本）の購讀を御勸め致します

明治會特別會員 高濱兼義

大日本帝國は今や昭和の新時代に入り年一年と重大なる責任を有する所の地位に入るのであれば是に對しては國民一般が大なる覺悟を持ちて立たねばならぬと思ひます。

先つ 第一に吾々は萬邦無比なる國体を有し萬世一系の天皇陛下を奉戴して居る日本帝國臣民として海外諸國に對して誇るに足るべきものがあります之を隣邦の所謂中華民國に比して見るに彼は革命に革命を重ね旦に共和となり夕には更に帝國たらんと夢みつゝ紛々擾々其國體の變化せること宛も猫の目のかはるが如き有樣で憐れむべき狀態である、然るに天壤無窮なる皇室を戴き居る吾等八千萬國民は洵に幸福と云はねばならぬ、實に我國が世界萬國に對して誇るべき唯一のものは國体の尊嚴なることである、私は何時も思ふことであるが我々日本國民は皇室を中心として結合し、融和し、統一し、風俗習慣を同じくする同一民族を以て組織し、そして萬世一系の皇室を奉戴すると云ふ事が如何に幸福なる狀態であるかと言ふ事であります。

併し是を理解して居るものが極めて少ないではないかとの疑があります、いや總てのものは太陽が東から出て西に入るのは當り前であつて、暗夜に提灯の有難味を感じても、太陽の有難さに氣附かぬ樣に日本の國體なども亦當然の事として格別に有難いとも何とも思つて居ないのではなからうか

凡そ 健康なるものは胃のある所を知らない、否知らうとしない、胃が痛む時に初めて胃が腹の中にある事に氣附くのである、胃が痛まなくては胃の所在に氣附く必要はない、併しながら胃の所在を知らぬ位に幸福な境遇があらうか我々は萬世一系の天皇を戴き同一民族で國家を形成して水入らずにやつて居る狀態は全く胃の所在を知らない幸福の境遇である、誠に有難い事であると言はねばなりません。

試に 米國の實例を以てすれば種々の民族が雑然として混在して居る狀態は全く人種の共進會であつて言語風俗習慣を異にする爲めに戰時でも、平時でも所謂米化運動に苦心慘憺たる實情を見る時に初めて我國の同一民族なる事の如何に幸福なるかを知り得るのであります、實に我國の如く萬世一系の皇室を戴ける事の如きもの之れが一國民心統一上如何に重要のものであるかと言ふ事は到底我々日本人自身に理解の出來ぬものであります。恰も實の父母に愛撫されて育つた者は繼父母の面倒な關係は到底理解し能はざる如きものであります。

それから私等は洵に迂濶千萬な話であるが、久しい間

天皇 陛下に御苗字の無い事に氣附かなかつた、實は左樣の事を夢にも考へなかつたのである、然るに宋の太宗が日本より僧奝然が入宋した時日本の天皇は萬世一系なるがために御苗字無しと言ふ事を聞いて長嘆せられたとの記錄を讀み、始めて我皇室に御苗字の無い事が氣附いたのであつた。

健康 者が胃の所在を知らぬ樣に日本國民は皇室の御苗字の無い事に氣附かない、之れが如何に幸福であるのであらうか、之れを當然の事と思ひて少しも有難いと考へない樣では實に皇室に對して罰があたると思はねばなりません。

斯る 尊嚴無比なる國體の下に渥き御聖德に浴する吾々國民は衷心より敬意と欣喜とを披瀝して感恩の念を堅くし、以て國家のために努力するの覺悟がなければなりますまい。

然る に熟々我帝國の現時の情勢を察するに政治は腐敗し、教育は權威なく國民は墮弱にして廉耻なく節義なく、滔々相率ひて苟且偸安誠に憐れむべきもの尠なからず、殊に思想問題に對しては實に寒心に耐へぬと言はねばなりません。

由來 日本程一つの時代に於て新らしい思想が一般に弄ばるゝ國はないとの事である、我國の或學者が英國の社會主義者に『君は一體「マルクス」信者であるか』と聞いたところ、すると僕は英國人だよと云ふから、それは判つてゐるが社會主義を信ずる君は『マルクス』を奉するかと云ふと僕は英國人だから何も獨逸の『マルクス』等の世話にならなくもよい、自分の國の社會主義がある、幼稚ながら元祖には『ロバートオウエン』もゐる今日では『シドニーウエッブ』もゐるし『マクドナルド』もゐる、英國人は英國人の指導の下に特有の主義がある何も『マルクス』の下僕になる必要はないと答へたさうである佛國人に聞いても、矢張り『マルクス』は問題でないと云ふ。

かく 社會主義者といふ新らしがり屋の人達でも各自が國民としての見識を具へて居るのである、然るに日本の若い社會主義者の如きは全然無條件で降服を『マルクス』と云ふ獨逸人に與へてゐる、更に『マルクス』が入つて別の發達をしてゐる『ロシヤ』人の下僕になつてゐると云ふ樣な國民は先つ日本人の外にはあるまいと云ふ事である。

殊に 我國は十世紀の昔大化新政において共産主義即ち土地人民の私有撤廢班田收授法を實行して見た事がある故に『マルクス』思想も我歷史にとりては決して新らしいことでも珍らしい事でもない、併し實行して見たもの諸種の弊害が續出して永續しなかつたのです、實際に思想は常に變化し動搖するもの我國の歷史を顧みて此感を深うするものであります。

思想 上は勿論此等の幾多の難局を打破するの唯一の最大最先の必要は『日本國體』のいかなるものなりやを知る事である、日本人が日本を知らずに居る、これ程の予盾と手落は外にあるまい又知らんでも可いと考へたり、知らうと思はずに居る、これ程の禍はあるまい、是に於て私は滿腔の誠意を以て一般の方々は勿論、殊に男女青年各位に御勸めして是非讀んで戴きたいと思ふ、書は

田中智學先生新著
日本とはいかなる國ぞ
一名(國體讀本)
正價金八拾錢

此書は去る明治節の聖日を以て公判發行せられたものであります。

大掃除は手際よく
その順序と注意

大掃除が始まります。梅雨に入らない前に長い間ためたごみを隅隅から掃だすことも、戸だなの中に藏ひ込んだ道具に日光をあてることも必要だし、いらなくなつた物を整理するのもこの時である。

毎年同じことをくり返すのも、ただお互の健康と幸福さのための衛生普及、家込みの場所などは殊に氣をつけてこの大掃除を善用すべきだと思ひます。

それでその日は朝一番最初にすることは家具類を戸外に運びだすことで、長く藏ひ込んで、何となく濕つぽくなつてゐる道具に風をいれ日光に當てるのが目的で三月のおひな樣を一年中ださないとお人形が泣くといひますが、道具だつて同じことでせう。次は疊をあげて日光のよくあたるところにだし、家の中の物が大體出ましたらば天井のすゝをよく拂つて出來たらば、雜きんをかけ、もう一層潔めるなら棒の先に雜きんをつけ二十倍位の石炭酸水をしめしてふくことです、これは天井に生みつけてあるはへの卵を絶滅するためです、それがすんだら押入や戸だなの隅々からゴミを掃き出し一旦床の上をザット掃除したらば、床をあげて床下のゴミをはき取り石灰をまき、二度目の床上掃除を丁嚀にした後に戸だなど押いれどの中に雜きんをかけます。

手早くこれらのことを終つて日の高いうちに戸外に持ち出した道具等を取込んでもとのやうに押込に收めたらば、きれいになつた床の上に一枚づつ成るべく新らしい新聞を敷いて粉のナフタリンを八疊敷の間に一ポンド位の割合でふります。これはのみよけのためですそして疊はよくたゝいて敷込む、それで家の中の掃除は一應終り、あとは戸外即ち家の周圍の掃除に移るのです。

平町某齒師の談

植田町
森合齒科醫院
森合孝男
小[illegible]町

內科 外科 一般診療
片岡醫院
片岡鎌三郎
湯本町驛前

磐城湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

×光線科
[illegible]醫院
平町南町 電話一二九番

內科、小兒科、皮膚科
[illegible]醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

植田町
片岡醫院
醫院長醫學士 片岡章
電話一〇七番

別府溫泉より生れた
神經痛 リウマチス 肩のコリ 腰のイタミ 凍傷 過勞性筋痛 の靈藥
溫泉エキス
（名あんまいらず）
◎皆樣是非お試し下さいませ
此外用溫泉エキスは今迄且つて世の中に無かつた神秘的の妙藥であります連續使用しましても副作用がありませんのと效力が確實な事とは他藥品の比ではありません
定價 五十錢 壹圓
特約店 平町五丁目 山野邊藥局 藥劑師 山野邊東次郎

春の洋服

背廣三ツ組	¥ 11.00ヨリ
スプリングコート	¥ 7.00ヨリ
レンコート	¥ 7.50ヨリ
防水子供マント	¥ 1.30ヨリ

其他合着豐富入荷
なかや洋服店
平 二・電 二〇三

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意チ
平町四丁目
關內藥舖
藥劑師 關內榮助
電話四〇番

平町田町
高久病院
電話五三一番

流下藥（秘密に讓ります 無効返金 金四圓 頭痛用金七圓）
月やく止まりて心配の人は安心確實無害に流下し目的を達する當局發賣の強烈特殊藥『カヅヤン』を用ひなさい。
某店の如く無責任藥は賣らぬ
高き醫療より安い藥劑師へ
特に平田町宇佐美藥局に
醫藥分業の標語募集
一等五圓貯蓄債券（以下略ス）四月三十日迄
用紙ハガキ
塗料大勉強 クレオソート（一斗二〇） コールタール（一斗二〇）

平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話七一二番

平藝妓屋組合

大森勇

平町二丁目裏通り
小松崎洗張本店
電話七七〇番

[illegible]

平町二丁目
荒物商 大一屋
電話一三番

平町二丁目
大村屋旅館
大村一郎
電話一七五番

支那青島市外四方庄
內外綿株式會社
柳內潁一

櫻と競ふ！春の御召物
本セールと本ネル
銘仙に錦紗小紋
御用命は何卒
三井呉服店へ

平町新川町
外科 產婦人科
木村病院
電話一六四番

平町新川町
佐川渉齒科醫院

花は公園……酒は花春
山崎合名會社
平町 電話一〇番、二七番

平町田町
御料理 初音
電話二三六番

平町大工町
多田井笑次郎

お花見には
銘酒 由良之助 瓶詰
●先約五千ケ限り 盃一ケ附
●花見拭附二合瓶詰 一本三拾錢
平町四丁目
永山釀造店總發賣元
電話二〇七番

新聞の眞價、存在と信用

平新報社長　山野邊眞立

◎我國民性の特有として虚實に對する觀念の缺くる事は今更云ふ迄もない所なるが是を地方新聞に觀るに事實の報導を以て職とする記者は勿論讀者各自も其眞僞の何れかを研究し尚進んで鑑別する事もなさず漫然として書き漫然として讀むが如きは一般殊に平地方の現在の狀態である。

◎故に地方新聞に籍を置くもの亦必ずしも流言浮說を嫌忌せざるのみか之を揭載輕々しくも讀者の要求を充たして結局發行部數を多くし廣告募集に易からしむると云ふ外は何事もないのである、地方民の好奇心を唆るやうな事柄であれば其如何はしいかごうかは少しも顧慮することなく寧ろ進んで是を揭載すると云ふに至つては其弊害の及ぼす所殆ど計り知るべからずである

◎新聞の勢力、權威、價値存在と信用とを保障することが出來なくなるのも無理ならぬ譯である。須らく其職にある者は新聞を組織的に研究し社會的勢力本質任務機能を初めとし經營上に於ける特殊の智識を養成し自已の經驗等もて識別し凡ゆる方面の事情に通じ民衆的興味と理解とを普及する事を要する。

◎各社會を通じて最も必要なるものは新聞である而も廉價にして公益を增進さする上に於て其眞價が現實せらる斯くものす筆者は出來ぬながらも新聞『旬刊』としての立場と使命とを遂行せんため新聞事業に同情を得たいと共に日刊として活躍する道程に在るが目下の所實家の事情許さず歸農するかも知らずその岐路に迷ふものであるが、新聞は一號は一號にして生命がある事を信ずるものなれば飽くまで大膽に努力する事を誓つて置く。

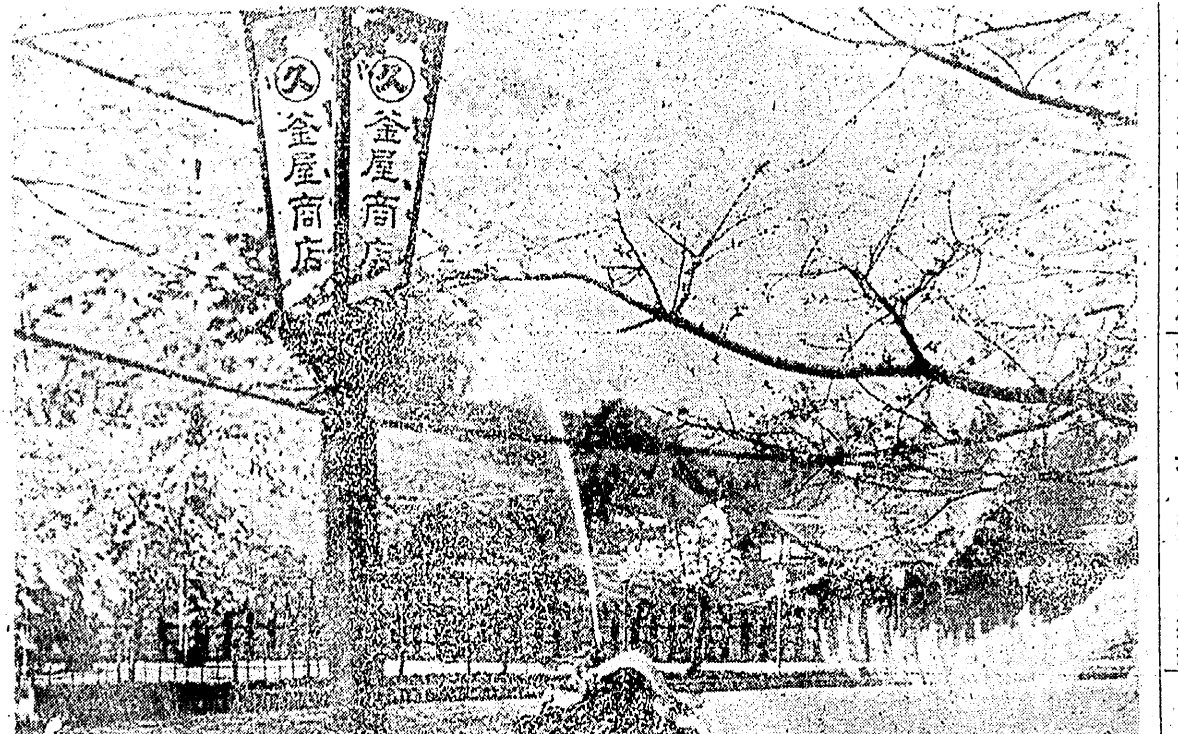
再び肺結核の豫防に付て〔六〕

湯本町　片岡鎌三郎

惡性強烈の所謂活動性菌の重感染、即ち無暗に結核菌を散亂する無智無理解の肺癆者に、持續的に接近するは甚だ危險であるが、昔云ひ傳られた三尺隔て尙且つ傳染するとか。向ひ合て話をするは危險なりとせられた說は、今日の學問上からは陳腐だ、大阪の結核病の世界的大權威者佐多愛彥博士は、醫者が患者を診るにマスクをかけるのは笑止の沙汰だと云はれた、元來結核の爆發は學齡から十七八歲、春氣發動期が身体の尤も變動期である時だから最危險性がある。其頃の發病は多く助膜炎か腹膜炎として發病するのが常である。打身が骨膜炎を起したり、『骨カリエス』とか落馬して打たが基で助膜炎骨髓炎等起すのを見ても、其負傷局部が抵抗力減じ、其處に結核菌が毒牙を露はす樣になる、擊劍や柔道で胸部を打つて、夫から助膜炎腹膜炎骨膜炎等を起し、夫れがやがて結核性となるのは往々見る處である、讀者も必ず見聞するだらうと思ふ、夫れは實は自分が保菌者で、結核菌が忽に暴れ出した、暴馬が繫を解れた樣に、弱みにつけこんだ結果である今日本で六千萬人中、殆ど大部分結核菌保持者であり且つ一度や二度は結核菌の侵襲を受けた人である。

或西洋學者が、五年間結核の侵襲を受けぬ人は無いと云はれた程である。而し六萬人中約千八百萬人は注意を要し、百八十萬人は誰が見ても肺癆者であつて、內年々十二三萬人つゝ死亡する、其徒勞消費は約二億圓だと云はれてある、實に驚嘆す可き悲慘事である、國家的社會的個人的にも大問題であるとは、今日醫學の定說となつてゐる。夫れも之れも要するに一般人士が除りに結核に無理解だから只管に恐怖病にとりつかれ詮すべなき有樣だ、現に東京で有名の笑草になつてる話がある。

或相當智識階級の紳士が某病院で診察受けた處が立派な肺結核病であつた處が其の紳士君、怒るまいことか我れは此通り强健寧ろ頑健な肥滿な油ぎつてる堂々たる体格の持主だ、先祖傳來無疵の家柄だ、嘗て穢はしき結核など受けたためしが無い今日初めて先祖へ疵をつけられ、聞くも穢はしき肺結核の汚名を衣せられた。と云つて醫者に短刀をつきつけておどかした事がある何と云ふ愚昧な沙汰の限りまあ智識ある狂人とも云ひ得る然も學識ある紳士格の者たるに至つては言語同斷其人は二年後には肺病で、冥土へ旅立ちしたのだ、寧ろ氣の毒千萬其當時なら質に治療も出來たものを、あたら命知らずな下劣の爲め三十歲で死なれた、自業自得ではあるが、實に國家的も可惜人であつた、けれども醫者に診て貰へば、肺病と云はれるが嫌だからと云ふ人も、世には澤山あることは否まれない事實だ、而して病毒を振り撒いてる罪惡者、自らも苦み人をも惱ませつゝある不德漢もある實に神佛も許し給はぬ社會的罪惡人である、だが病名を云ひば氣を落すからと、い〻加減なデタラメ診斷を受けて喜んでる人もある。けれども氣を落す所でない實は大いに感謝して一大決心、起死回生の大策を樹つべきだ、臭い物に蓋をして置く位、氣まついものはない、人間は譯も分らず曖昧の裡に、置かれる位齒がゆひ事は無いのである。



來ても見やんせ磐城の平　櫻咲きます

松ヶ岡

平の櫻は一雨每に咲き初め今や三分咲き、氣の早い銀行連中は財界の不安は何のその去る十三日觀櫻の魁けをやり十四日の日曜には助川遊りからの團体あり松ヶ岡公園はものいふ花も加はり花の角突き合ひ加ひて十三日夜より櫻花廣告燈も例年の通り夜の公園を美化して居る、此處許平公園は賑はひを呈する事であらう『寫眞は辨天池附近』

語耳目

平信用組合の問題はバカにタダリ三森虎雄氏や吉田校長、某女學校長の追擊となつ居る樣だ、廓淸事業も亦難いかなである

×　×

平常はあまり顧られぬ松ケ岡公園も櫻の咲き初めからそろ〱人足が繁くなる……西風吹かばピタと止るこれが本當に春氣さし秋風吹くと申すのであらふ。

本紙上連載片岡氏の肺結核豫防は國家的の問題で事を未然に防ぐ意味に於て精讀を御勸めする。

×　×

自分が平地に波亂を起して自分で靜め解決し得ず他人の暴力行爲を以つて向ける文化業者たる新聞記者があつたとしたら吾人は飽くまで正義の筆硯を持して正當防衛するに躊躇せぬ。

×　×

平町議も改選四十五日であるが立候補せるは宇佐美友二郞氏一人、まあ花見終つてから來月になるであろふが確實立候補者は民政系四人、と高橋鑑松氏、二丁目は山崎孝之助氏を勸めて居るのだが若し受けずんば關內正一氏を推すならんも丹野榮三郞氏の再出馬が無難ならんか。

×　×

現在の平町は有產階級が甚だ怪しからぬ事で自分が陰で繰つり第一線に立たざる事がいかぬ、郡山市を觀よ、橋本、根本兩氏にしろ第一線に立つて市のためにこれ力めて居るのではないか、平町でも山崎清三氏でも諸橋守次氏でも進んで出で町のために致すべきである。國は縣より縣は自治体市町村よりである。各自治体の善政によりて國家の發達に及ぼすものである事は今更呶々を要せぬ事である、この意味に於て政黨的に觀れば平の民政黨連の頭株は擧つて第一線に立ち居る所に强味がある。

平商工會創立

十六日發會式擧行

鈴木邦三郞、關內正一、三森虎雄、猪狩庄平、諸橋守次、山崎清三、柏原幸次郞阿部政右衛門、小野園次郞其他三十有余名提唱の下に平町に商工業發達向上の機關として平商工會を創立する事となり明十六日午後一時より元いはらき新聞平支局に於て發會式を擧行する事になり、會則役員其他の附議をなす由である、該會は眞に政黨政派を超越して斯業發達研究のため邁進するもので聽ては商業會議所設置の前提と申しても然るべきであらふから町役場、警察署は勿論一般から該會の發達を囑望されて居る。

商友會

二十一日開催

平商業學校同窓商友會は本月二十一日午後一時より定時總會を母校に於て開催する由である。

鈴木常次郞氏永眠

玉川村島鈴木常次郞氏は病氣療養中の處藥石効なく去る六日永眠同九日は葬送されたと。因みに氏はかつて同村長や消防組頭の職に在つた人である。

東北日日を觀る

秋月生

風の名物磐城の天地……こがらし吹く二月の中旬突如として東北日日新聞が生れた。

全く異体の知れぬ代物として驚いた、發行編輯人を見ると平館の石井孝辯士であるハテナこれは平館の機關新聞であるなと思つた。

所が段々探つて見るとその實權者は河北新報平支局の橫山氏であると言ふから尙更驚いた、そうすると石井孝君は只デクノ坊的な發行人で橫山氏に利用されて居るのである人氣商賣の平館が使用人たる辯士に一新聞の發行人となつて居る事は余り賞めた事ではあるまい。最も東日の第二面の上段記事を見ると平館の映畫記事ばかりであるからこの方面から言つたら或は平館も益する事ないでもないだらう、東日は一名活動新聞とも世人は言つて居る樣だ。

さて實の人である橫山君とは一体何んな考へを持つて居る人か………生立ちや過去の事は何うでもいゝとして現在の橫山君を評して見よう、筆者は、理屈の分らない人これ一言を言つて盡きると思ふ。

熱し易く冷め易く人飽きのする大風呂敷を廣げるが其の實小膽でケッメトの少さい人間である、熱し易いと言ふ實證は去る日磐城新聞の紙屑籠にあつた記事を見て忽ちに熱して磐新を地上より葬れとか本社は制誅の劍を採るとかの記事を書いて大風呂敷を廣げだが、その熱も忽ち冷めて磐新に紙屑籠でアッサリ片付けられてしまつた。

始めて人に逢つた時には紳士的な人の樣だが直ぐに飽きるのは橫山君の特長であらう。

平新報に今攻擊されて居る通り、家の中では大きな事を言つて居るが小膽な人間は男らしく戰いまいぞと平新報にサン〲攻擊されて一言もないのは先づ平新報の言ふ通り世人一般は認めたろう。

こんな風格の橫山君の經營して居る北新が何の程度まで延びるかは豫測できないが日刊が四ッある內磐新、磐報、常磐の三社は步調を揃へて進んで居るのに北新のみが天涯の孤兒で同業者間の意志の疎通を缺き北新茲にあり乞幾等頑張つても三社では强敵とも思はず愈々足並は揃つて居るし天祐でもない以上先づ延びるのも凡その見當はつくだらう。

記事だつて何も目新らしいものもないし何を以て讀者を引きつけるかは知らないが要するに選擧を見込んでの創刊でないかと思はれる、そうだとすれば愈々以て打算的な余りに極端な主義ではあるまいか、讀者は何んな感じを持つかは知らないが筆者は靜かに考へて見よう、北新をまつわる人物は橫山君の社說と筆洗ふ前に時折は佐藤氏友も手傳ふらしい、あの記事は河北の大島君がやつて居る樣だし石井君はポストと第二面の平館の活動記事とが專問これ丈けの人間でやつて居るのだもの讀者だつて始めは好奇心に釣られて居るだろうが段々飽きてくるだろうと考へられる。

熱派の臭味はない樣だが今度の選擧には何れかに臭味を持つだろうと思ふ

何れにしても筆者は北新の永續性ありや又何の程度まで延びるやを靜かに常に絕えず觀て居よう、そして時にふれ折にふれて論じて見よう、總てに打算的で余り慾の深い人間はやがて一人ボッチになる事は火を見るより明らかな事をつけ加ねて筆を擱く。

◎此寄稿者は決して新聞同業者にあらずして住所姓名明記の上なれば誤解なき樣御斷りして置く。

『原文のまゝ』

(白)

春＝花＝櫻＝酒＝女

野に咲く一重にあらず　八重と闇に咲かねばならぬ

解語の花だより

艶麗なる美衣を被ひ……ある意味に於て……普通女性からの羨嗟の標的となり誇り顏に脂粉を施し、紅さして濃艶な色粉と香ひ高き酒の歡樂の巷に舞ふて魅力ある秋波と嬌愛豐かなる微笑とに依つて言葉巧みに異性の溫い胸に巢くはんとするに汲々たる藝妓!!彼女等はやはり『野に咲く一重の櫻にあらず八重に咲かねばならぬ運命の花園の人間なのだ』そして片目では淚のハートを抱いて三味線の音を相伴に人生の道を辿りつゝあるのである、觀よいくら藝と美を豐有し鑑札をうけて居る商賣の藝妓であるから藝を賣り酒間に侍べるも操は決して賣らぬ等と我意を張るも到底客が許さず否な還境が許さぬ事になる若し戀は人間だからするが操は賣らぬ妓があつたら手を揭げ給へ、こんな事は紅筆が說明するまでもなく事實が嚴かに物語つて居る。サテそれが一重に咲く櫻にあらざる理由を紹介するが一寸いつもながら御斷りせねばならぬ事があるは外でもない。◆本欄への投書は男文字や女文字タクサンあります……がその眞否調查に苦心する所で紙上は匿名としても藝妓名や客筋は明記して下さい、よく新聞を惡用して戀敵打ちや、フラレの意趣バラシや故意に家庭を亂すものがないとも限らぬから……。◆それはそれとして平の櫻花は咲き初めた!いでや投書ラヂオ混ぜの平ものいふ花連の亂れ咲き八重咲き振りの短評に入る。◆久本の久松姐さん、無暗に御ひゐき客に厭味と恨みを申すとの事、大和家(阪東丈助丈)定紋云々は御自分の御自惚帳の第一頁にありませんかね。同小夜子、花の雷で仲々の人氣者、去る日或る御座敷で耳の下『ホクロ』を批判されたら『イエワヨアノ人は是れがヨイッテ云ふわよ』とはなか〱ハナせる。◆竹の家御鯉、曰く、『鯉は水のみにて生けるものに非ず』則ち牛肉、サクラ肉、豚肉をも食するもの也と汝等克く其愛を受けよ、ソは六丁目のオーさんの御惠みをアーメン。◆福清のとん子姐さん、六日晚乙に味噌汁をキメ込んで高座から一種異樣の眼を光らして居る內は無難さ、六三三番○さんの御姿を九拜する倶にニコット御笑ひ遊はしたは大當りヨー御兩人。◆○○座のエム川さん、中老の域を過ぎても精力の充滿アノ肥大なる体軀で其放射機能が頗る付きの完全だと、放射の光榮に浴せし妓の比例は新田町總數に對する三十%强だと就中最も從の鮑は○家の○助だと此の妓は相當以上にエム川さんに預金をしたと田町雀のペチャ〱をそのまゝ。◆橋の千代助、洋行中の處今回歸朝慶賀の至り一体六日演藝大會に御奮發の八枚御祝儀はあの字の君よりの假支出に非ず哉と誤新杯の岡燒も二三はあつたけ。◆湖月の助六、君の思想は最近頗る官僚化した傾向が顯著である、虎の威を借る猫とは申せばとて○等○○の○○さん背影の力か接近の密度正比例が一大の原因であり。亦た結果であるだよ、○○運動の參加は中止し給へ。◆故鄉(石ノ卷)忘じ難く竹の家の御輕○川さんと竹馬の友で目下は○○仲だ四月三日夕暮れ生壽し仰山に○○座樂屋口へ毎度オアリガトー御座います。◆古言に曰く『親子の仲にも禮節あり』と云ふが本月上旬或る夜の慘事無念口惜しの一念から特撰の由良之助ニリットル程ラッパをヤッツケ故鄉丸出しで○家の○助君、か、御他人樣の四疊半然かも蝶々喃々たる其蜜語の眞只中に暴れ込むは一寸度が過ぎる。◆仲家の御平、御輕姐さんを恨む勿れ、恨むものは勘平に非ずして多情多恨の福助姐さんなりだとそうかな◆品澤の御千代子、春雨が小糸の如き降る夜、○丁目角より相合傘て赤井のヨーサンと新田町へ夫れから何處へ沈沒でした、春雨傘とは此の事か◆仲家の一寸助一寸助則ち名は体を表すとの事、電話五〇五番克く架けますね、ターサンは他に增す花があるのよ、御用心なさい、六〇六に電話をかけぬ樣に。◆全じ仲家の新妓小高、君の島田が小高ならず大高だと云つて居るせ、最も前任地のオーサンを追憶するのかも知れぬ。◆谷口の文勇、春未だ淺い今日急行過ぎの御散歩は御体に障りますよと頗る心配して居る人二人ある。◆三好家の松太郞、カーさんと云ふ天下唯一の○○を獨占して居りながら餘り浮氣をすると損氣になる。◆竹の家福奴、西京仕込の舞踏は頗る佳境に入りし感があるが君の身長今少しく大ならん事をナガレ三十三間堂、新願せぬであつたショーと、大層御心配の醉人がこれ、又二四が八人あつたッけ。◆林家○○君の元の夫君○○さんが町議に立候補されたのではないか、變形助ケ船では街頭販賣でもして助ケ船を出す善良の情心なえかね◆水京の富彌姐さん、城山のナーサンと濃厚なる接戰を以つて、毎夜の如き○○邊り六七本宛御稼ぎとは御奮鬪家の至りですね。◆湖月の月子、毎朝、何處へ御參詣に出かけるのだ、まさか『ベルッ丸』の御信仰ではあるまいね。◆久本前の小夜子が又出たなんて騷いで居るがさにあらず、城山の鐘突堂邊に長火鉢でネまし込んで御座るよ。◆秀勇姐さんが床に就いた小波先生を起して書いて貰つた『守唄の側をはなれぬ蝶々かな猫の後姿の讃の行衛はサーさんが大工町のターさんに一時入質した相である、いくら借りたか知らぬが裸かに迄されたマーターさんこそいらい災難であつたもの◆谷口の小染は一名キンツバと稱すがその語原は○沼文學博士に聞けば判る由である。◆山形家のいろ子を若き高橋お傳と稱すゲナ若くて凄いからか。◆玉川のこ小糸はジンダークな相なれは但しマーマーさんが町議に立てばとの事◆ピラビラの語原は吉野家の五郎から。◆ゴゼの取締を谷口の秀勇姐さんとなす。◆冬傷のサシミは品澤の小光、その意味は食ひない。◆竹の家の磯壽デッチと言ふは判り切つて居る事。

新川堤夜櫻

土手霞む萬朶の櫻
　灯に映ゑて

酒井耕影

養蠶用寒暖計
農藝消毒藥各種
平町五丁目
山野邊藥局

知人消息

◆阿部岩次氏　平四丁目伊勢屋荒物店の氏は病氣療養中の處快方に赴き四ッ倉町より通勤して居る。

◆鈴木佐忠氏　江名小學校長の氏は今回双葉郡新山校長に轉じた。

◆振旗　弘氏　鹿島村小學校長の氏は江名校長に轉じた。

◆諸根樟一氏　氏と草野、諸橋三氏の編纂になる福島縣政治史愈々製版近日頒布する由である。

◆小泉宗雄氏　立憲の氏は諸根氏と共に平陽女學校酒井ミヨ女史銅像建設寄金募集に獻身的に熱走して居る

◆大和田與平氏　氏の主宰する磐城之實業は最近定期刊行をなし紙上活氣を見せて居る。